

# 2023年度 東京経済大学大学院 博士論文審査報告書

2023年 5月 12日

コミュニケーション学研究科委員長殿

論文審査委員

主査 本橋 哲也

副査 松永 智子

副査 光岡 寿郎

審査の結果、下記のとおり報告します。

記

審査請求者	学籍番号	20DC001
	フリガナ	ワシ サイ
	氏名	王 サイ

	審査委員署名	評価
評価欄	本橋 哲也	合格
	松永 智子	
	光岡 寿郎	

★評価欄の氏名は自筆署名でお願いします。

論文題名	中国アヴァンギャルド・アートに関する研究
------	----------------------

## (所見欄)

王サイ氏の博士論文は、「中国アヴァンギャルド・アート」に関する包括的な研究論文としては、日本語圏においてはほとんど類例のない先駆的なものであり、その点で、博士論文のテーマにふさわしい学術的貢献と新たな分野の開拓として、評価に値するものと思われ、今後の類似の探究の基礎ともなり、現代中国アートの研究として多くの示唆を与えるものと考えられる。

王サイ氏の博士論文の概要を目次によって示すと、以下のようになる――

### 序章

- 第1章 西洋と中国における「アヴァンギャルド」の定義
- 第2章 無名画会――中国現代アヴァンギャルド・アートの起源
- 第3章 四月影会――中国アヴァンギャルド・アート芸術形式の多様性
- 第4章 星星画会――アヴァンギャルドが政治に介入する
- 第5章 85美術運動――文化としてのアヴァンギャルド・アート
- 第6章 89中国現代芸術展とその後のアヴァンギャルド・アートの展開
- 第7章 中国におけるアヴァンギャルドの意味
- 補章 アヴァンギャルド芸術家へのインタビューと中国アヴァンギャルド・アートの可能性

この目次からも知れるように、当論文は「中国アヴァンギャルド・アート」というこれまでほとんど研究されてこなかった主題について、その概念的定義と歴史、および現状について、具体的な作品への言及を交えながら、その歴史的社会的政治的文脈とともに詳細に検討した論文として、学会への新たな貢献として評価できる。

しかし、先月行われた予備審査においては、以下のような問題点が指摘された――

- 1) 「中国アヴァンギャルド・アート」の歴史がどのような点で、西洋の「アヴァンギャルド・アート」史と異なるのかの、明確な位置づけが不足している。
- 2) 「アヴァンギャルド」概念については丁寧に整理されている一方で、もう一つの重要な概念で

あるが、「モダニズム」概念の扱いが不十分である。

3) その他にも、「ダダ」や「シュールレアリズム」といったより具体的な芸術運動思想実践の扱いが不十分である。

4) 一般的に言って、中国アヴァンギャルド芸術の位置づけについて、その作品の分析やそれが作られてきた社会的文脈への言及は分厚いが、それが政治的文脈においてどんな制度的制約や限界を持っていたのかについての論述が少ないので、マクロな歴史的背景がいまひとつ浮かんでこない。

5) 中国アヴァンギャルド芸術が西洋（西ヨーロッパやアメリカ合衆国）や日本のそれと比べて、どのような独自性をもって位置づけられているのかが、あまり明確化されていない。

6) 中国のアヴァンギャルド芸術家へのインタビューはたいへん貴重なものではあるが、それが博士論文全体の中での持つ役割が不明確であるので、これらのインタビューが本論とどう接続されていて、本論のどの議論をどのようにサポートしているのかが分かるような書き方でないと、単なる付け足しの印象を与える。

7) いくつか誤字脱字に修正が必要である。

予備審査以降、以上のような点にある程度の修正が施されたが、その後さらなる審査員の指摘に従って、次のような論点をもとに、最終版の論文には修正と加筆が行われた――

①中国アヴァンギャルド芸術運動以前の中国の「正統的な」美術史の概要が示されたこと。

②共産党の支配下、とくに文化大革命という「政治的な前衛運動」と、アヴァンギャルド芸術という「芸術的な前衛運動」との緊張関係に言及がなされたこと。

③現在のアヴァンギャルド・アートを代表する二人の芸術家のインタビューを一問一答形式ではなく、論文の中に入れ込む形で、「補章」として、中国アヴァンギャルド芸術運動の「未発の可能性」について論述が行われたこと。

④読者の参考として有用な図版に出典が明記されたこと。

⑤中国現代史の人物や項目について注が施されたこと。

⑥さらに指摘のあった誤字脱字や表記の不統一に修正が施されたこと。

審査員一同として、以上のような点においてさらなる修正と加筆が施された点を評価し、この分野における画期的な研究成果であることを再認識するとともに、いずれはそれにふさわしい形態のもとに一般読者を利する出版物として公表されることを期待しながら、王さんの今後の研鑽を願って、最終的に提出された論文を本審査合格と見なし、博士号を授与することに合意いたしましたことをご報告申し上げます。

また末筆ながら、王さんは東京経済大学からの博士号の取得を条件として、2023年9月より中国済南山東工芸美術大学の常勤教員職に就かれることが内定しておられることも申し添えさせていただきます。